

Izu no kuni × 20

企画課 ☎ 055-948-1413

HISTORY

伊豆の国市のおゆみ

伊豆の国市は4月1日
で市制施行20周年
を迎えました。たくさ
んの人が伊豆の国市を愛
し、支えてきたからこそ、
今があります。
この特集では、伊豆の国
市の歴史を振り返ると
もに市制施行20周年を記
念して開催されるイベン
ト
などを紹介します。
皆さんも伊豆の国市の
20年間を振り返りなが
ら、自分が過ごしてきた
20年間に思いを馳せてみ
ませんか。



- 令和**
- 27 (2015)年
『長嶋茂雄ロード』誕生
・ 葦山反射炉「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として、世界遺産に登録⑭
・ モンゴル国ソングノハイルハン区と友好都市交流に関する覚書を締結
 - 28 (2016)年
・ 長嶋茂雄読売巨人軍終身名誉監督来訪⑮
・ 葦山反射炉ガイダンスセンター開館⑯
 - 29 (2017)年
・ 市民交流センター(大仁くぬぎ会館)開所⑰
 - 30 (2018)年
・ 伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定
・ 道の駅「伊豆のへそ」リニューアル⑱
 - 令和元(2019)年
・ 古奈もみじ公園開園⑲
 - 令和2(2020)年
・ 北条早雲公没後500年祭⑳
 - 令和3(2021)年
・ 国道136号江間交差点の立体化、江間ICのフルインター化㉑
 - 令和4(2022)年
・ 大河ドラマ『鎌倉殿の13人』放送㉒
・ 大河ドラマ館開館㉓
 - 令和5(2023)年
・ LOVOTをいずのくに特命大使に任命㉔
 - 令和6(2024)年
・ クリーンセンターいず完成
・ 米国マリナー市と友好都市交流に関する覚書を締結
・ 川の駅伊豆城山オープン㉗
 - 令和7(2025)年
・ 市制施行20周年
- 平成**
- 17 (2005)年
・ 3町合併により「伊豆の国市」誕生①
・ 初代市長に望月良和氏就任
・ 将棋の日イベント
 - 18 (2006)年
・ 京都府長岡京市と姉妹都市盟約を締結
・ 第一回下駄ダンスコンテスト②
 - 19 (2007)年
・ 第一回パン祖のパン祭③
 - 20 (2008)年
・ 狩野川リバーサイドパーク整備完了④
・ 伊豆の国観光パスポート発行
・ 狩野川台風50年慰霊式典⑤
 - 21 (2009)年
・ 国民文化祭・伊豆の国市イベント
・ 第一回葦山竹灯籠まつり⑥
 - 22 (2010)年
・ 大仁中学校新校舎完成
・ 第一回伊豆どろんこフェスティバル⑦
・ 市営堆肥化施設『農土香』完成⑧
 - 23 (2011)年
・ 宮城県多賀城市震災被災者宿泊場所提供事業⑨
 - 24 (2012)年
・ 全国市町村あやめサミット⑩
 - 25 (2013)年
・ FMいずのくに開局⑪
・ 第2代市長に小野登志子氏就任
・ 願成就院の運慶作諸仏が国宝に⑫
 - 26 (2014)年
・ 江間公園開園
・ 伊豆の国音頭完成⑬
 - 27 (2015)年
・ 伊豆の国音頭完成⑬

市制施行20周年を記念して開催する事業・イベントを紹介します。皆さんも参加して、一緒に20周年を祝い、盛り上げましょう!

申し込み・問い合わせ
 企画課
 ☎ 055-948-1413

20周年記念イベント

届け!わたしたちの想い

こども議会

未来を担う子どもたちの意見・提言を今後の市政の参考にし、市政に対する子どもたちの理解や関心を深めるため、こども議会を開催します。

とき/ 8月21日(木)8時30分~12時
 ※7月24日(木)、31日(木)、8月7日(木)、14日(木)に準備会を実施

ところ/伊豆長岡庁舎 議場、会議室

内容/

【準備会】提言書の作成
 ※市職員が調査や資料作成をサポートします。

【議会(本番)】提言書の発表

対象/市内在住・在学の小学5年生~中学3年生15人(応募多数の場合は抽選)

申込/6月13日(金)までにQR
 または電話で

その他/希望者は市職員が自宅まで送迎



31年ぶりにやってくる!

NHK のど自慢

NHK のど自慢の開催が決定しました。伊豆の国市での開催は、平成6年以来、31年ぶりとなります。



とき/9月14日(日)
 ところ/長岡総合会館
 (アクセスかつらぎ)



アクセスかつらぎ▶
 大ホール

※出場および観覧希望の募集などの詳細は、現在、調整中です。決まり次第、広報紙や市HP、市公式 SNS および NHK 静岡放送局のHP などでお知らせします。

伊豆市との合同企画!

「いずのひ」キャンペーン

伊豆市とともに、毎月12日を「いずのひ」と設定しました。毎月12日に、対象店舗で「ちょっとお得で楽しいサービス」をお届けします。詳細は市HPをご覧ください。▲市HP



20周年×北条政子×ミニマト

ミニマトビール 「政子の情熱」完成

市制施行20周年および7月の北条政子没後800年を記念し、伊豆の国市の特産品、ミニマトを組み合わせた、ミニマトビール「政子の情熱」が販売されます。ミニマト香る後味さわやかな味わいをお楽しみください。

とき/4月1日(火)~
 販売場所/市内および近隣のセブンイレブン、スーパーマーケット

内容量/350ml(アルコール分4%)
 製造・販売/GKB株式会社(御殿場市)



▲このラベルが目印



▲ラベルデザイン
 切り絵:紙切り作家 水口千令さん
 商品名:願成就院住職 小崎祥道さん

インタビュー

伊豆の国で生まれ育った3人にインタビュー。20年前の思い出や20年間の思い出をそれぞれ振り返ってもらいました。

20年間を振り返って

好きなことを追求していく

現在、アパレルの仕事をしています。数年前、韓国アイドルにハマって以来、美容に興味を持つようになりました。毎日欠かさず、顔や髪の毛のケアをしています。小さい頃は、学校や河川敷で遊んで泥だらけになったり、真っ黒に日焼けしていたことも今となっては懐かしく感じます。仕事は始めたばかりですが、自分のオスズメをお客さんに買ってもらえた時の喜びは忘れられません。将来も、美容系の仕事をしたいと思っています。そのために、美容の勉強をして知識を深めていきたいです。



かわぐち よしき
川口 陸稀さん

20年前の私

私の誕生日は 伊豆の国市の誕生日

平成17年4月1日生まれ、伊豆の国市と同じです。伊豆の国市と同じだと知ったのは10歳の頃。自分の誕生日が特別な日だと思っていたので不思議な感覚でした。誕生日を教えるとき、「伊豆の国市と同じ」と伝えて、みんなに覚えてもらっています。



20年前の私

自分の将来を 考えていた新成人

新成人の年で、成人式の実行委員を務めていました。当時、「立派な大人になって社会に貢献する」という目標を書いていました。地元で先生になろうと勉強に励む日々でした。教育実習も近かったので、期待と不安を抱えながらの日々だったことを覚えています。



20年間を振り返って

子どもも自分も成長していく

大学卒業後、伊豆の国市や近隣の小学校で先生として働き続けています。毎年多くの子どもたちと関わり、成長に寄り添うことができ、とても幸せです。これまでの経験に加え、たくさんの先生に支えられて、自分自身も成長することができました。今は社会の変化が著しく、教育現場もいろいろな対応が求められています。その中で、試行錯誤を重ねていき、これからも、子どもたちの笑顔があふれる学校・地域を作っていく一員でありたいと思います。



うだ みなみ
宇田 実奈美さん

20年前の私

旧3町から 「伊豆の国市」に

書類に記入する住所が、「田方郡」からではなく、「伊豆の国市」だけで済んだとき、楽になったなど思ったのと同時に、合併して市になったことを実感しました。仕事の面では、市になって、新しい出会いや関わりが増えていくのではないかとワクワクしていました。



20年間を振り返って

地域の人たちの温かさに感謝

たくさんの人と交流し、温かさに触れることができました。消防団の分団長時代、旧3町消防団を統合する時期で、苦勞しました。それでも、今まで関わらなかった人や他の地区の人とも話をして調整しながら進めていきました。多くの人の協力がなければできなかったことだと思います。新しいことや誰もやったことのないことに対して、協力してくれたことに感謝しています。伊豆の国市の人たちはみんな温かい心を持っていると感じましたし、この地域でずっと暮らしたいと思いました。



すずき まさゆき
鈴木 正之さん

ポスターコンクール

小中学生対象のポスターコンクールを実施しました。

最優秀賞作品は、市内の公共施設での掲示や公用車のマグネットとして使用します。

※入賞作品一覧は市HPをご覧ください。



▲市HP



最優秀賞
 「大好き!伊豆の国」
 大石由季さん(大仁北小)

いざ、次の20年へ

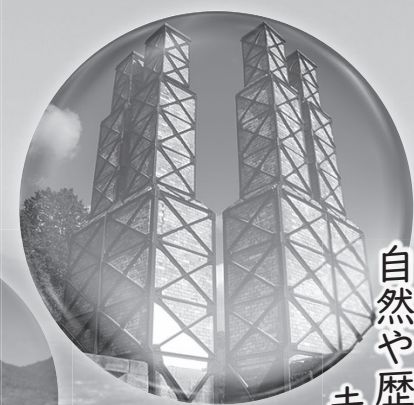
あなたは、どんな20年を過ごして
きましたか。

伊豆の国市は、市民が安心して、
心地よく過ごせるまちづくりを進
め、貴重な歴史遺産や文化を守り
伝えてきた20年でした。

これから先の10年、20年はどうな
るでしょうか。その先にどんな未来
が待っているか、大切なのは、市民
と市がともに、希望あふれるまちを
つくっていくことです。

誰もが幸せに暮らせるまちを、私
たちみんなの手で、つくっていきま
しょう。

自然や歴史、文化を
未来へ伝えるまちへ



誰もが安心して暮らす
あたたかいまちへ

子どもたちを
みんなで育てるまちへ



世界へ続くまちへ



全ての人が
大切にされるまちへ



誰もが幸せに暮らせるまちへ
今までも、
これからも。